

FOMCを受けての日米株式・リート市場

FOMC直後の米株・米リートは早期利下げ観測後退を嫌気

2024年2月1日

早期利下げ観測後退の一方、中期的な利下げ織り込みは強まる

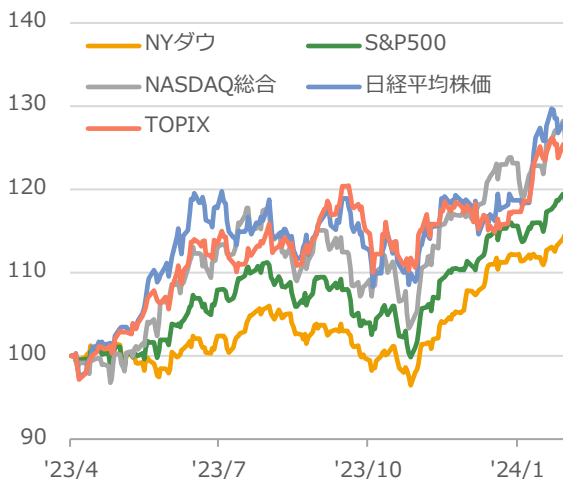
FRB（米国連邦準備制度理事会）は1月30～31日（現地、以下同様）に開催したFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジの据え置きを決定しました。今後の政策変更について、声明文では利上げに傾斜していた前回までの文言を削除した一方、FOMC直後のパウエルFRB議長の記者会見では、3月の利下げに否定的な見解が示されました。

31日の米国株式市場は下落しました。パウエル議長が、3月の利下げはメインシナリオではないといった趣旨の発言をしたことが下落要因になったようです。ただ、金利先物などを参考にすると市場の将来的な利下げ織り込みは、むしろ強まったとみることもできるため、中期的な利下げ期待は維持されるでしょう。日本の株式市場は、目先、米国株の動向や年初からの上昇ペースの速さが警戒されそうですが、日本株の相対的な割安感や日本企業の変革を評価するトレンドは継続すると考えられます。

31日の米国リート市場は下落しました。決算シーズン中のため個別要因によるセクター間のばらつきはありますが、オフィスセクターなどを中心に昨年末にかけて急ピッチで上昇が進んできたこともあり、早期利下げ観測の後退が嫌気されたようです。一方、中長期的に金利が低下方向にあると考えられる点は、金利敏感な資産である米国リートにとって引き続き追い風です。日本のリート市場は、国内金利の上昇余地を考慮しても利回り面での優位性が支援材料となりそうです。

日米主要株価指数

(2023年4月初～2024年1月31日)

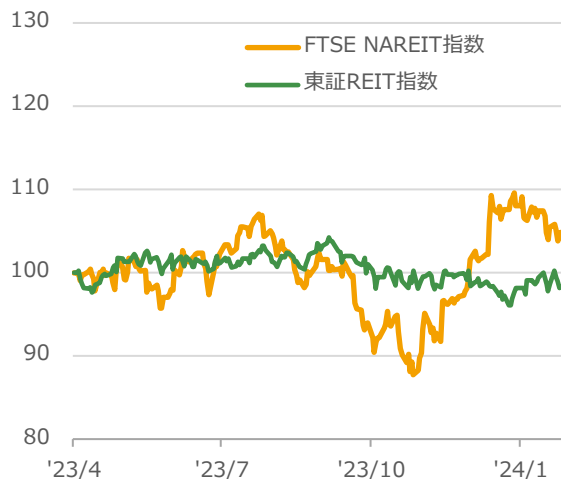


※起点を100として指数化、現地通貨ベース

(出所) ブルームバーグ

日米リート指数

(2023年4月初～2024年1月31日)



※起点を100として指数化、現地通貨ベース

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management